

整備が進む豎坑櫓周辺

海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群 (9)

志免町所在「豎坑櫓」周辺では、雑草を切り払って整地し、ぼた山との間の道路ものり面が整備されるなど、これまでとは違った風景が現れています。この過程で地下からこれまで知られていない坑口（a、cほか）が発見されました。昨年九月三日、志免町文化財保護審議会の一員として遺構を見学する機会を得ましたので、その時の写真と今年一月二十七日、地表面を整備した後に撮影した写真とを比較しながら説明することにします。

* * *

写真1は現況です。左側に豎坑櫓を取り巻く円形のフェンスの一部が見えます。正面の木の向こう側には月隈方面の山が見えます。写真2は埋め戻される前の坑口aです（木の向きを写真1と比較してください）。手前にアーチ型の坑口aの枠があり、奥へと傾斜し

て行き、その先は右へカーブして地下深く下りていく構造になっているようです。

写真3は坑口aを見下ろしたところ。下駄を並べたように見えるコンクリートの出っ張りはレールを敷いた土台の部分です。写真4は坑道に入り、アーチになった天井部分を写しています。天井からぶら下がる器具は電線などを支えたものでしょう。レールや電線は撤去されていましたが、コンクリートに埋め込まれたものは残されたようです。

写真5は現況ですが、写真1とは逆方向、若杉山に向かって写っています。左に斜坑口b（従来から露出していたのですが、雑草に囲まれてよく見えなかったものですが、真ん中に新たに発見された坑口c（地表面より低いものの、埋め戻されています）、その右奥にグラウンド用のトイレが見えます。トイレの左側に一本立ったコンクリート製の電柱dも遺構の一つです。

写真6は坑口bへ入るところです。写真7は坑道から坑口を振り返って撮影しました。まっくらな闇を少しばかり体験しました。

写真8は斜坑口bの現況。写真9は見学時の写真です。坑口枠が地表面に露出していますので、危険防止のため鉄柵で閉鎖されています。写真10はトイレ側から写した現況です。奥に斜坑口bの背中の部分、手前右にコンクリートの電柱dが立っています。

写真11（現況）は掘り出された石炭塊が斜坑口bの横に並べられているところです。

安全のためヘルメットを着用し、坑内へ入る時は懐中電灯で足元を照らしながらの見学でした。



2



5



6



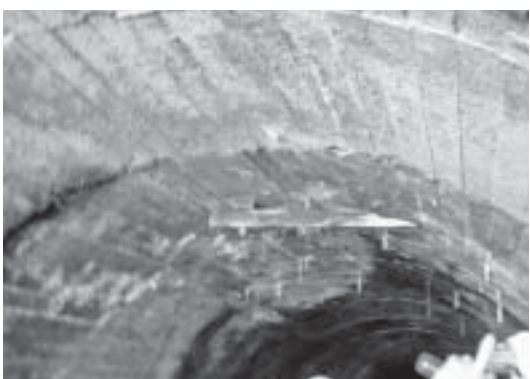
9



1



3



4



7



8



10



11